

# 陽気だより

養徳社 検索

No.7 2007.10.15



## 創刊号から

『陽気』は、昭和24年5月の創刊、平成21年に60年を迎えます。その足跡の一端を、昔の記事からふり返っていきます。

『陽気』誌は、創刊されて半年余り、巻頭に上記のような漫画を掲げていた。著作画家名入りだが、どういう人かは今ではもうわからない。内容も格別信仰的なものではない。これは『陽気』誌が、どちらかといえば教外の人を読者対象にして編集されていたからではないかと思われる。広告も、天理市内に限らず地方から、また多種に及んでいた。



## 創刊号

### 「私は夫のことが好き」より

無いものがある

柏木庫治東中央大教会初代会長夫人

柏木明子

「柏木さんは大法螺吹きですね」と人さまが申されます。

初めて東京へ出ました時から、家の前にありました大山元帥の広大な宅を眺めては、あれを買いつつて、教会にする、と、口癖のように申しておりました。とうとうそれが実現してしまいました。また朝鮮で働いておりました頃、おれは貴族院議員になるのだ、と申しますので、笑い話に聞き流しておりましたが、これも実現してしまいました。今日では主人の法螺を、ただの法螺としてしまえない、一つの力を感じないではおられません。人さまは頓智がよいと云われますが、私はやはり魂の徳であろうと思えます。

戦災ですっかり焼けましたときも、「焼けて結構、家は焼けても理は焼けない。戦災ではなくて、戦患だ」と申します。

或る人が「先生のところには何でもありますね」と申しますと、柏木は即座に答えました。

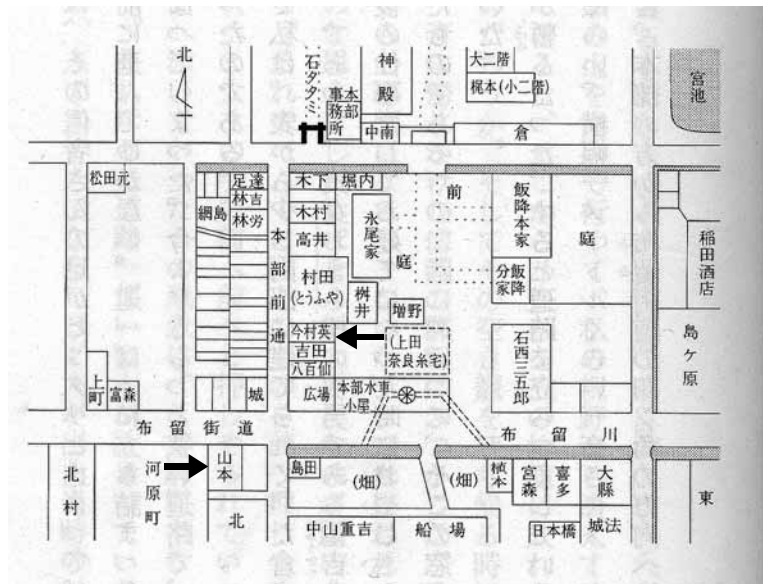
「僕の家にも、無いものはあるさ」

「何が無いのですか」

と申しましたら、また即座に、「不平と愚痴がないさ」と答えました。

(抄)

日本の「交通整理」はおちばから



明治33、34年ごろのおやしき前付近（『おちば今昔』より）  
真ん中あたりの左矢印が著者の今村氏宅。左下の右矢印が、  
山本利八氏宅。上に本部の門があり、右上には、今はないが、  
「鏡池」がある。布留街道は現在「天理本通」になっている。  
真ん中下あたりに「本部水車小屋」があった。

今村英太郎著『おちば今昔』には、明治三十九年（一九〇六）二月十八日（陰暦正月二十五日）の教祖二十年祭当日、祭典後の様子が記されている。著者が、当時の本部前通の自宅から見た光景である。

本部門前通の道（幅約四メートル）を、参拝後に各詰所へ帰る信者さんの足がピタッと止まった。五分も十分も動かない。そこで、少し奥の倉

の二階にのぼって、窓から密集した道路の有様を見た。道路に立ちつくす信者の頭上を、長さ二・幅一・高さ一メートルくらいの竹籠が、スルスルと本部の方から布留街道の四つ角の方向へと泳ぐように動いて行った。いつの間にか竹籠は視野から消えた。

何かを入れて本部へお供えに持っていく、空の籠を持ち帰ろうとしていたら、信者の

群れにぶつかった。誰かに「邪魔になる」と言われて、仕方なく頭の上に持ち上げた。しかし、そんな大きなものが頭の上に覆いかぶさると、誰しも困る。前へ前へと押しやるから、どんどん人の手から手へと運ばれていったものだろう、と著者は想像している。

また、フト四つ角（東西に走る布留街道と、南北に通じる本部門前通りの交差点）に目を留めると、本部門前から南へ抜けようとする人びとと、東から西へ行こうとする人の群れが、交差点でぴたりと衝突状態になっている。これが、人びとが身動きできずに立ちすくんでいた原因だった。

一人の警官が西南角にある家（山本利八さん宅）の低い屋根にのぼり、サーベルか何か棒のようなものを片手に、大声を張り上げて「交通整理」を始めたという。

—— 当時はまだ日本のどこの都市でも警官の交通整理は行なわれていなかったはずであるから、よく私は冗談交じりに人に言って笑わせた。「日本の「交通整理」は、おちばから」—— と結んでいる。

**第9回「陽気」読者講演会**  
10月25日 PM 2:00 (開場30分前)  
南右第2棟「陽気ホール」  
「聴こえますか？」  
**若者の心の声**  
講師：古市俊郎  
(スクールカウンセラー・福之泉分教会長)

11月26日に発刊します!!  
植田與志夫氏 待望の著書

『さあ、これからやー信心は意気と熱』と題して、植田與志夫氏の本を出版します。『陽気』に掲載他、数々の話が収められています。何度読んでも胸震え、血が湧く話。表紙カバー絵は、西蘭和泉氏（天理中学教美術教諭）が描いてくださいます。

養徳社発行千冊目の本。まさに、さあ、これから！と、勇んで最終校正にかかっています。ちなみに、講演会CDは好評発売中です。※ご購入は、おちばの各書店でお求めくださるか、直接当社へご注文ください。  
(0743・62・4503)

養徳社 よもやま話

★十月初旬、積立金による年一回の一泊二日の社内旅行に今年は淡路島から徳島へと、総勢八名が参加して行ってきました。海沿いのホテルに予定より早く着いたので釣りに出かけました。すると、小ぶりのアジが三十分足らずで二十四匹余りも釣れました。世話してくれたホテルの方が「他はほとんど釣れないのに、なんでこのグループだけが……」といぶかしげでした。そりゃ、信仰雑誌を出している出版社の社員だもの!! ちなみに釣ったアジは、夕食から揚げでいただきました。

広告を載せませんか

ようほくの企業や会社の広告を『陽気』誌へ載せてみませんか？ 掲載料金は、広告の大きさによって異なります。料金は、記事中で一回二万円から。

詳しくは 養徳社広告係まで  
0743・62・4503  
この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。  
養徳社